



みえの 子ども 白書

～2016～

三重県

三重の子どもたち、大人たちへ

～子どもたちの笑顔や子育ての喜びあふれる地域社会づくりに向けて～

「子どもは、一人ひとりかけがえのない存在である。」

平成23年4月に施行した三重県子ども条例はこの一文で始まります。子どもたちの笑顔や子育ての喜びあふれる地域社会、これは私たちの願いです。

子どもを取り巻く環境は、インターネットの普及や生活スタイルの変化などによって複雑かつ多様化しています。また、共働き世帯が増え、ひとり親家庭も増加するなど家族のあり方も多様化し、地域の絆が薄れる中で、児童虐待の相談件数が増加傾向にあり、我が国の子どもの貧困率が16.3%であるなど、子どもに関わるさまざまな問題が顕在化しています。

これらのことから県では、平成27年3月に、結婚・妊娠・子育てなどの希望がかない、すべての子どもが豊かに育つことのできる三重をめざす「希望がかなうみえ 子どもスマイルプラン」を策定し、取組を進めています。

この「みえの子ども白書2016」は、プランに基づくさまざまな取組の参考とするため、子どもや保護者、県民の皆さんへのアンケート調査の結果を中心に作成しています。

私は、子どもが自分らしくいきいきと育つためには、子ども自身が夢や将来の希望を持ち、自分を大切な存在であると信じていることができる「自己肯定感」が何よりも大切であると思っています。

今回のアンケート調査から、「周囲の大人の関わり」と「子どもの自己肯定感」に関係があることや、「さまざまな体験や経験」と「子どものコミュニケーション能力」に関係があることなどが見て取れます。一方で、近所の子どもをほめたり、注意してくれる地域の大人が減り、子どもの育ちを見守り、応援したいと思う大人の割合も減少しているという結果も出ています。

家族のあり方が多様化し、地域の絆が薄れている今だからこそ、家庭や地域、学校などにおける周りの大人の関わりが、「子どもの育ち」にとってこれまで以上に重要になっていると思います。

この白書をご覧いただき、大人の皆さんには、子どもたちの笑顔あふれる地域社会づくりに向けて、できることから行動していただきますようお願いいたします。

子どもたちには、みんなの幸せを願い、大切に思っている大人が周りにたくさんいることを知ってほしい、そして、夢や将来の希望を持って自分らしく生きてくれることを願います。

平成28年(2016年)2月

三重県知事 鈴木英敬

目次

●はじめに

「みえの子ども白書2016」刊行にあたって ……2

「みえの子ども白書2016」の全体像 ……4

●第1章 子どもの生活…7

第1節 子どもと家庭

(1)家庭での生活 …… 8

(2)学習時間等 …… 14

(3)家族の学校行事への参加状況 …… 19

第2節 子どもと学校

(1)学校生活 …… 20

第3節 子どもと社会

(1)地域との関わり …… 22

(2)社会に対する興味・関心 …… 23

●第2章 子どもの気持ち…25

第1節 子どもの自己肯定感

(1)自尊意識 …… 26

第2節 子どもの規範意識

(1)規範意識 …… 30

第3節 子どもの悩みと相談相手

(1)子どもの悩みと相談相手 …… 33

●第3章 子どもと大人…37

第1節 家族との関係

(1)家族との会話・対話の状況 …… 38

(2)子どもに関する保護者の悩み …… 44

(3)子どもの育ちにおける保護者の役割 …… 45

第2節 子どもに対する大人の理解

(1)大人からの愛情 …… 46

(2)大人の理解 …… 49

第3節 子どもの自己決定

(1)大人の傾聴姿勢 …… 51

(2)今の子どもの特徴 …… 55

第4節 子どもの体験

(1)子どもの体験 …… 57

●第4章 子どもと地域…61

第1節 子どもと近所との関わり

(1)子どもの育ちへの応援 …… 62

(2)近所とのつきあい …… 62

(3)近所の人と子どもとの関係 …… 63

(4)子どもが育つために取り組みたいこと …… 66

第2節 子どもと地域の大人との関わり

(1)子どもへの大人の関わり …… 67

第3節 子どもの地域への愛着

(1)地域への愛着 …… 70

●第5章 家族を持つこと…73

第1節 高校生の結婚観や子どもを持つことの意識

(1)高校生の結婚観 …… 74

(2)高校生の子どもを持つことに対する意識 …… 76

第2節 子育てなどについての意識

(1)少子化に対する危機感 …… 78

(2)未婚化・晩婚化の理由 …… 79

(3)男性の育児参画の考え方 …… 80

(4)祖父母による育児・家事の手助け …… 81

(5)理想とする家族の住まい方 …… 82

●資料編 -三重の子どもをとりまく現状- ……83

●三重県子ども条例に基づく 調査の結果概要(単純集計)…97

はじめに

～「みえの子ども白書 2016」刊行にあたって～

平成 23 年 4 月 1 日に施行した三重県子ども条例（以下「条例」といいます。）は、「子どもが豊かに育つことができる地域社会づくり」に向けて、地域のさまざまな主体がともに連携して取り組むために必要な事項を規定したものです。

条例の前文では、

「全ての子どもには自ら育つ力と多くの可能性があり、子どもは自分が受け止められ、認められていると実感することで自己肯定感を高めることができる。また、子どもは、家庭や学校を始めとする地域社会での経験を通して、人との様々な関わりや多様な価値観に触れることで、人を思いやる心や自らの課題を乗り越える力を身に付けることができる。そして、次の世代を大切に育てることのできる大人へと育っていく。そのために、人と人とが強い絆で結ばれた地域社会を形成し、子ども一人ひとりが力を発揮して育つことができる社会へと向かうことが求められている。」

としています。

また条例第 14 条では、

「知事は、子どもの生活に関する意識、実態その他のこの条例に基づき県が行う施策の推進に必要な事項を調査し、その結果を公表するものとする。」としています。

地域の絆が薄れる中で、ひとり親家庭が増加するなど家族のあり方が多様化し、児童虐待の相談件数が増加傾向にあるなど、子どもに関わるさまざまな問題が顕在化している現状が、資料編のデータなどからも、改めて浮き彫りになっています。

県では、平成 27 年 3 月に策定した「希望がかなうみえ 子どもスマイルプラン」に基づき、結婚・妊娠・子育てなどの希望がかない、すべての子どもが豊かに育つことのできる三重をめざして、さまざまな取組を進めているところです。

本書は、平成 27 年度に県が実施したアンケート調査(子ども調査、保護者調査、県民調査)の結果を中心に、子どもの生活実態や意識、周りの大人の意識や地域社会の状況などについてまとめています。

特に、小学生や中学生、及びその保護者を対象とした調査については、市町毎に小・中学校をそれぞれ 1 校ずつ抽出して調査の協力をお願いしたところであり、回答の中にはさ

さまざまな家庭環境の子どもが含まれています。

(アンケート調査の概要)

- ・調査時期 平成 27 年7月～8月
- ・調査対象、件数等

| | | |
|-------|-------|--|
| 子ども調査 | 小学5年生 | 市町立小学校を市町毎に各1校計29校、 県立特別支援学校3校、私立小学校1校から抽出。 有効回収数 1,236件 |
| | 中学2年生 | 市町立中学校を市町毎に各1校計29校、 県立特別支援学校3校、私立中学校1校から抽出。 有効回収数 1,533件 |
| | 高校2年生 | 県立高等学校11校、県立特別支援学校3校、 私立高等学校1校から抽出。 有効回収数 1,103件 |
| 保護者調査 | | 上記の小学5年生、中学2年生の保護者 有効回収数 2,424 件 |
| 県民調査 | | 各市町の選挙人名簿に基づき無作為抽出 有効回収数 1,441 件 |

- ・調査主体 三重県健康福祉部子ども・家庭局少子化対策課
- ・調査委託機関 株式会社コミュニケーションサービス

(地域別補正の実施)

県民調査について、前回（平成23年度）調査では5地域（北勢、伊賀、中南勢、伊勢志摩、東紀州）毎に2ないし3市町を選定し、調査対象者を抽出しましたが、今回の調査では、選挙人名簿登録者数の比率に基づいて、すべての市町から調査対象者を抽出しています。

また、すべての市町毎に1校ずつ選定して実施した市町立小中学校の児童生徒及びその保護者を対象とする調査について、前回調査では、1校あたり70人を基本として調査対象者を抽出しましたが、今回の調査では、各市町の児童生徒数を基本として抽出しています。

このため、前回調査との比較を行うにあたり、県民調査や小学生、中学生及びその保護者を対象とする調査については、前回調査の結果について地域別の補正を行っています。

なお、高校生を対象とする調査については、前回調査と調査対象者の抽出について大きな違いがないことから、地域別の補正は行っていません。

(注)

- ・本書の図表において、「その他」や「無回答」の数値などについては記載を省略している場合があります。また比率は全て百分率で表し、小数点第2位を四捨五入していることから、百分率の合計が100%にならない場合があります。
- ・一部の図表に記載のある「n=〇〇（数字）」は、その設問における回答者数を表しています。

「みえの子ども白書2016」の全体像

全国学力・
学習状況調査

平成19年度から小・中学生
を対象に文部科学省が実施
している調査

三重県子ども条例に基づく調査

子ども調査(アンケート)
小・中・高 合計3,872件
(特別支援学校含む)

[主な項目]

- 家族との会話
- 自己肯定感
- 「大切にされている」か
- 「意見を聞いてくれている」か
- 近所の人との関係
- 結婚や子どもを持つことの意識

保護者調査(アンケート)
小・中 保護者 合計2,424件
(特別支援学校含む)

[主な項目]

- 子どもの自己肯定感
- 子どもの「意見をきいている」か
- 子どもの体験
- 子どもが自分でできること
- 子どもが「大切にされている」か
- 地域での取り組み

県民調査(アンケート)
20歳以上の県民 1,441件
(選挙人名簿から無作為抽出)

[主な項目]

- 近所の子どもの関係
- 子どもの育ちへの応援
- 男性の育児参画
- 理想の家族の住まい方
- 祖父母による育児・家事の手助け
- 少子化への危機感

統計データ

- 国勢調査
- 人口動態統計
- みえ県民意識調査 等

調査結果など

第1章 「子どもの生活」

子どもの生活実態を明らかにします。

- ◆ 第1節「子どもと家庭」
- ◆ 第2節「子どもと学校」
- ◆ 第3節「子どもと社会」

第2章 「子どもの気持ち」

子どもの内面的な実態を明らかにします。

- ◆ 第1節「子どもの自己肯定感」
- ◆ 第2節「子どもの規範意識」
- ◆ 第3節「子どもの悩みと相談相手」

第3章 「子どもと大人」

子どもと大人の関係のなかでの相互の意識を
明らかにします。

- ◆ 第1節「家族との関係」
- ◆ 第2節「子どもに対する大人の理解」
- ◆ 第3節「子どもの自己決定」
- ◆ 第4節「子どもの体験」

第4章 「子どもと地域」

子どもの育ちを支える地域の実態を明らかにします。

- ◆ 第1節「子どもと近所との関わり」
- ◆ 第2節「子どもと地域の大人との関わり」
- ◆ 第3節「子どもの地域への愛着」

第5章 「家族」をもつこと

結婚や子どもを持つこと、
子育てなどに対する気持ちを明らかにします。

- ◆ 第1節「高校生の結婚観や子どもを持つことの意識」
- ◆ 第2節「子育てなどについての意識」

資料 三重の子どもをとりまく現状

調査結果から見えてくること

子どもたちの笑顔や子育ての喜びあふれる
地域社会づくりに向けて

子どもの自己肯定感と家庭や地域、学校における大人の関わりに関係がみられる



子どもが自己肯定感を高め、夢や将来の希望を持って、自分らしくいきいきと育つためには、**地域や家庭、学校などにおける周囲の大人の関わり**が重要

近所付き合いの程度が下がり、近所の子どもをほめたり、子どもの育ちを見守り、応援したいと思う大人が減っている。また、近所の大人からほめられたことのある子どもほど「自分のことが好き」と答えている



子どもの育ちや子育て家庭を支える地域の力を高めることが重要

「子どもの体験や経験」と「コミュニケーション能力」に関係がみられる。多くの大人が異なる年齢の子どもと一緒に遊んだり、活動することが重要と考える



子どもが自然体験やスポーツなどを楽しむことができる環境づくりが重要

赤ちゃんや小さい子どもとふれあった経験と高校生の結婚観や家族観に関係がみられる



個人の考え方や価値観を尊重することを大前提としたうえで、若者が結婚や子どもを持つことに関心を持てるよう、**赤ちゃんや小さい子どもとのふれあい体験を含めたライフプラン教育**が重要

夫婦共働き世帯が増加する中で、若い世代ほど「父親も育児に積極的に参加すべき」と考える割合が高い



仕事と子育て等の両立を希望する男女ともに働き続けることができる職場環境づくりが重要

祖父母による育児・家事の手助けが望ましい、親(配偶者の親)との近居を理想の住まい方と考える県民が多い



祖父母世代の子育て支援が進むような環境づくりが重要

- 基本的な生活習慣の傾向
- ゲームやメールの時間と学校以外の勉強時間の傾向 など

- 「自分のことが好き」な子どもの割合
- 「自分のことが好き」と「夢や将来の希望がある」との関係 など

- 「大切にされている」、「意見をきいてくれる」などの子どもと大人の意識の差
- 「大切にされている」、「意見をきいてくれる」と「自分のことが好き」との関係 など

- 近所付き合いの程度
- 近所の大人からほめられり、注意されたこと
- 子どもの体験とコミュニケーション能力との関係 など

- 高校生の結婚観や家族観と赤ちゃんや小さい子どもとふれあった経験との関係
- 父親の育児参画についての意識
- 祖父母による育児・家事の手助けについての意識 など

子どもをとりまく背景を統計データなどから整理します。